



学校だより

9月号



平成29年 8月29日発行
さいたま市立本太小学校
Tel 048-882-3007
<http://motobuto-e.saitama-city.ed.jp>
e-mail motobuto-e@saitama-city.ed.jp

没頭力 ～ 他人を気にしすぎる子は ～

校長 井出 了一

夏休みを終え、一回り遅しくなった子どもたちの元気な声が学校に戻ってきました。天候不順な夏でしたが、休み中も地域や保護者の皆様の御協力により、事故なく元気に過ごすことができたようです。歓声をあげていたプールの行き帰りにも、交差点で子どもたちを見守ってくださる姿がありました。心より感謝申し上げます。

2学期は、残暑の厳しい時期から冬至過ぎまでの長い学期になります。このあと秋も深まり、9月30日(土)の運動会をはじめ、修学旅行、音楽会、サッカー大会など、様々な行事が予定されています。普段の学習の一層の充実とともに、様々な行事を通して、心も体も元気いっぱいの本太っ子の育成を目指します。引き続き御支援・御協力くださいますよう、よろしくお願いいたします。

以前の学校だよりで『本校は地域や家庭に恵まれ、児童は自己肯定感が高く、学習にもしっかり取り組み、学校生活を楽しく送っている。一方、人前での発表に苦手意識があるなど、やや消極的な面も見られる』とのアンケート結果を御紹介しました。このことがずっと気にかかり、改善策はどうしたものかと調べていたところ、こんな記事を見つけました。

『他人を気にしすぎる子』 (石田勝紀 著)

できる子には「没頭力」が身についています。では、どうしたら世間の競争に振り回されず、自らの世界に入っていける(没頭できる)ようになるのでしょうか。

1. 他者との比較はしない

過去の自分より成長したのか、比較するのはよい。ただ、他者と比較ばかりするのはムダです。他者のよさは参考にする程度にとどめ、悪いところは反面教師とする、と割り切れるようになったほうがいいでしょう。これは簡単なようで、結構難しいかもしれません。

2. 物事を『面白い』と感じている人に接し、共鳴する

その世界で楽しんでいる人と出会うと、面白さの共鳴が起こることがある。「面白い」「楽しい」と思っている人から教わると楽しくなるものです。そして楽しんでいるうちは競争という概念が消え去ります。そうした人とふれあい、自分に没頭する習性を身につけていくといいと思います。

3. 「人と同じであることが正しいとは限らない」と知る

人と同じであることがよいと錯覚している子、自分の意見が言えずに人に合わせようとする子が非常に多いと感じます。質問されたときに、すぐ「わかりません」と言うか、前に答えた子と同じ答えを言うシーンをよく見かけます。人と違うことを恐れているようにも見えます。自分の意見を持つこと、そして他者の意見を理解すること、このような認識が慣れてくると、目の前の競争など取るに足らぬことと感じ、自分の勉強に没頭できるのではないのでしょうか。

○ 2学期、本太小の子どもたち 一人ひとりが輝くために

確かに「周りと同じ」でないと不安を抱く子が多くなったように感じます(大人もそうでしょうか?)。「空気を読む」というのも行き過ぎは考え物です。本校では、自信をもって自分の意見を発言し、友達の意見もしっかり聞き、話し合っ折り返しを付け、より良い行動ができるように、学級会を中心とした特別活動の充実に取り組んでいます。一人ひとりが輝く学校を目指します。

